

**～ 第 6 回 第 6 次留萌市総合計画策定市民会議 ～**

**【開催概要】**

- 平成 28 年 7 月 27 日（水） 15:05～16:34
- 留萌市役所 3 階 3・4 号会議室

**【出席委員】**

座長	伊 端 隆 康	委 員	大 石 昌 明
副座長	大 館 哲 也	委 員	高 橋 理 佳
副座長	田 中 美 智 子	委 員	谷 龍 嗣
		委 員	田 村 裕 樹

（委員 7 名）

**【事務局】**

地域振興部長	中 村 秀 寿	政策調整課主幹	佐々木 仁 彦
政策調整課長	高 橋 一 浩	政策調整課主査	江 川 雅 信

\*\*\*\*\*

**【協議及び意見交換事項】**

- ① 第 6 次総合計画市民会議(案)たたき台について 【資料 1】
- ② 意見交換会での主な意見について 【資料 2】

**【内容】**

- ① 第 6 次総合計画市民会議(案)たたき台について

〔事務局からの説明〕

- 広く市民の方から意見をいただくため、パブリックコメントを 1 か月の期間で実施する。
- 10 月に議会へ議案として提出する。
- 市民会議で 5 本の政策基本を基に作成し報告している。内部議論の中では「健康・福祉・教育」が子育て、教育に関しては、人口減少問題を考えたとき外出し、市の計画案となる時には 6 本の柱になることも有り得る。
- 港をキーワードから外すことができないとも話している。

〔意見・確認等〕

- 前回会議で出された意見を基に、市民計画(案)としてまとめたもの。  
主に、各政策ごとの文末の表現の変更、環境・都市基盤の目指す姿の表現を変更し、大きな変更は無い。

- ② 意見交換会での主な意見について

〔意見・確認等〕

- 全ての団体で共通しているキーワードは、担い手の問題も含めやっぱり「ひと」だと感じた。また、多くの人がかかわりを持たなければいけないということ。
- まちの中心を決めていくべきと説明したら、特別な異論はなかった。公共施設建て替えも含め避けて通れない問題。
- ひらがなが多い、長いという意見が出たが、単刀直入の言葉だけで表現すればいいとは思わない。優しいマチという印象を受けるのでいいと思う。ひとくくりの言葉を使うと伝えたいことが伝わらない。自分にとって都合のいい解釈をしてしまい、目指すところがばらばらになってしまう。
- ターゲットを絞るべきという意見が出たが、市民にとってもどこに向かうかあった方がいいと思う。「みんなでつくる」というのが主題だと思っている。それぞれの単語に意味することを付記していくのが分かりやすくなる。
- 「留萌の状況は末期的」と言っているが、なぜこんなに後ろ向きな人ばかりなのかと思う。後ろ向きな発言ばかりで不安になる。危機感が無くて、人任せで、創生ではなく再生と言っている。民度が低い。
- 人任せな発言が多い。意見は言うが、やるのは自分ではないというのが伝わってくる。自分たちで作っていくということを認識させなければ、これから先がない。

- 何かひとつを達成することで波及していく計画でもいいのかなと思う。
- 何か小さなことでも継続して取り組んでいくことが大切だということを思ってほしい。
- 港を前面に出すべきという意見が出たが、港があったおかげで、ニシンが無くなった後も石炭移出などで栄えた重要なキーワード。
- 港じゃなく福祉に回すべきと言われていた。今度は港が入っていないと言い出す。
- 市民会議としても港は外せないキーワード。具体的な政策を考えるときに、市民を巻き込んでしっかり考えていかなければならない。
- 海のマチというのは感じているが、港町とは思っていない。人情港町とか港町だから熱いというのは使う。
- 農協、漁協の共通点は、人材確保、担い手確保、新規就農。農協で人材を確保したいのであれば、なぜ自分たちで漁協に声掛けしたりしないのか疑問。市役所頼みになっている。
- 人が足りないというより、若手に魅力を発信できていないということではないか。
- いい人材が集まり、担い手が増えるなんて夢物語はとりあえずやめて、現状維持を頑張らなければいけないと思う。
- 扶養控除の103万円、130万円を超えてまで働きたいという方がいない。
- 年配の方は、対価よりも自分のやりがいを感じて働いていて、そういう人がまだまだ市内にいると思う。若いひとだけではなく働くいきがいというのも大事だと思う。健康のためには食や運動というが、一番は仕事だと思う。
- 若い人の職場を奪ってしまうという可能性もあるので、バランスが必要だと思う。
- 農業の就業体験など試みているということであったが、結果に結び付いていない。
- 1年目はこれくらいの収入、5年後にはこの農地を任せる、収入もここまで上がる。周辺農地の集約化によって法人化、企業との連携でこうなっていくというようなプランを見せない限り、誰も集まってこない。農業は楽しいなど言ったって無理。初めは大変だけど、10年後にはこうなる、20年後にはこのくらいの収入が見込めるというプランを見せないといけない。具体的にやるやらないの判断がつく材料が必要。
- コメ農家は、安定しており、安心してしまっている。後継ぎ問題は抱えているが、これ以上を求めているということもある。
- 10年検証ではなく、短期間での見直しを強くいった方がいいのではないか。
- 基本計画や実施計画の中で、この市民会議と各課との意見交換できる場があると、そこに意見を反映させることができるのではないか。

#### 【次回会議】

○ 8月12日（金）午後2時から 市役所 3階 3・4号会議室